シリア内戦の大きすぎる犠牲：3 年に及ぶ医療の崩壊が子どもたちに与える影響

（A DEVASTATING TOLL: The impact of three years of war on the health of Syria's children）

〈概要和訳〉

「重症を負った女の子が運ばれてきました。薬も、医療器具もないため、私たちはなすすべもなく、彼女が目の前で死んでいくのをただ見守るしかありませんでした。今でも彼女の顔が頭から離れません。」アナス[1]（ヘルスワーカー）

シリアの 3 年に及ぶ内戦で、子どもたちは大きな犠牲となっています。少なくとも 120 万の子どもが難民として近隣国に逃げ、国内に残った子どものうち 430 万人は、人道支援を必要としています[2]。子どもたちは極度の暴力を受けたり、目の当たりにしたりしています。これまで 1 万以上の幼い命が暴力のもとに失われています[3]。

これらの恐ろしい事実はすでに世界で報道されています。しかしこの報告書が伝えるのは、これまで語られたことのない、そしてあまり注目を浴びていない、忘れられた戦争の犠牲者の話です。

子どもを殺害し、重症を負わせているのは銃弾や砲弾だけではありません。子どもたちは、基本的な医療を受けられないことにより命を落としています。シリアの医療システムは、壊滅的な状況に陥っています。そのため、本来ならば予防ができ、治療も可能な病気で子どもたちは苦しみ、命を落としているのです。

3 年前に内戦が勃発して以来、がんやてんかん、喘息や糖尿病、高血圧や腎機能障害などの、命に関わる慢性疾患を持った何千人もの子どもたちが、医療にアクセスすることができず、亡くなっている可能性があります。

これは危機というよりももっとひどいものです。医療システムの完全な崩壊により、何百人もの子

---

[1]すべてのヘルスワーカー、子ども、親の名前はプライバシー保護のため仮名としています。

[2] UNICEF, 'Emergency Alert: Children of Syria', January 2014, p. 3, http://www.unicef.org.uk/Documents/Publications/UNICEFEmergencyAlert_Syria_Jan14.pdf

[3] United Nations Security Council (UNSC) (Jan 2014) 'Report of the Secretary-General on children and armed conflict in the Syrian Arab Republic', p 7, http://www.un.org/ ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2014/31, last accessed 10 February 2014

どもたちの健康な暮らしが脅かされているのです。

紛争が始まる前のシリアは、子どもの死亡率もそれほど高くない中所得国でした。2012 年の乳幼児死亡率は 1000 人のうち 15 人という数字でした。1990 年の数字が 38 人でしたから、国連ミレニアム開発目標 4 の予防可能な乳幼児死亡率を 3 分の 2 削減するという目標の達成に向けて順調に進んでいました[4]。国の医療システムはきちんと機能しており、医療水準も高く、子どものための予防接種や、出産時の熟練した助産師の立ち会いや、病院での出産の機会が、すべての人に対して提供されていたからです[5]。

紛争勃発から 3 年がたち、状況は大きく変わりました。医療システムは荒廃し、おざなりな医療行為しか受けられないたくさんの子どもたちが苦しんでいます。

この報告書では、崩壊しつつあるシリアの医療システムの現状と、シリアの子どもたちと母親がどのような状況に置かれているのかを報告します。訓練を受けた医療スタッフ、子ども対象の治療、医療器具や薬の不足について、そして保健医療システムの崩壊が妊産婦と新生児にどのような影響を与えているのか、さらにワクチンで予防できる病気で亡くなる子どもの数が増加していることについて、解説します。一言で言うと、シリアの人道危機は、保健医療システムの壊滅的危機に発展しているのです。

シリア全体で、60%の病院と[6]、38%の一次医療施設[7]が被害を受けたり、破壊されたりしています。また、薬の生産も 70%減少しています[8]。シリア国内にいた医者の半分近くが国外に退去し、もともと 2,500 人の医者がいたアレッポには、現在たったの 36 人しか医者がいません[9]。

---

[4] UNICEF, Syria web page, http://www.unicef.org/infobycountry/syria_statistics.html

[5] 同上

[6] World Health Organization, Syrian Arab Republic, Jordan, Lebanon, Iraq Monthly Situation Report, Issue No. 18, 10 August–10 September 2013, http://www.emro. who.int/images/stories/syria/documents/Syria_crisis_SitRep_WHO_18_01_Oct.pdf

[7] IRIN, ‘Syria: Healthcare System Crumbling’, December 2012, www.irinnews.org/ report/97011/syria-healthcare-system-crumbling, last accessed 9 February 2014

[8] World Health Organization (2012) ‘Health Situation in Syria and WHO Response’, 26 November, p 2, World Health Organization Regional Office for the Eastern Mediterranean, www.who.int/hac/crises/syr/Syria_WCOreport_27Nov2012.pdf

[9] A wake-up call for polio eradication’, The Lancet Infectious Diseases, vol 14,

唯一残った数軒の医療施設は、治療を必要とする患者の数の多さに苦闘しています。医療施設に行く途中の、または施設の中にいるヘルスワーカー、医療スタッフや、子どもを含む患者たちが、攻撃の対象となっています。住居が仮設の病院として使われ、居間で手術が行われたりすることもあります。

医療施設に運ばれてくる子どものほとんどが紛争による怪我をしているにもかかわらず、施設にはスタッフもおらず、子どもたちを手当するための器具はなく、十分な衛生状態が保たれていません。

シリアの医療システムの減退は、以下のような、様々な恐ろしい形で現れています。

- 怪我をした子どもたちを治療するための機具がないため、四肢を切断しなければならない
- 停電が頻繁に起きるため、新生児が保育器の中で亡くなっている
- 麻酔がないため、患者が意識を失うために金属の棒で気絶させられることを希望している
- 医療スタッフがいないため、医療知識のない親が子どもに対して点滴を投与している

現在のシリアでは、子どもたちは生まれてくる前から命の危険にさらされています。シリアの女性たちは、出産前後、および分娩時のケアを受けることができません。救急車や女性の医療スタッフが不足し、病院までの道のりが、多くの検問やバリケードなどで妨害されているからです。そのため多くの女性が助産師などの立ち会いのない状態で出産しています。家で一人で、または戦闘から逃げる途中に出産することになるのを恐れ、多くの女性が不衛生な状況下で帝王切開による出産を望むようになっています。

シリアの予防接種プログラムも崩壊しています。平和なときは 91%だった予防接種率も、紛争がはじまって一年で 68%にまで落ち込みました。この数字は、今日ではもっと下がっているでしょう[10]。紛争が始まる前は誰もかかることのなかった、はしかや髄膜炎といった、命にかかわる病気も増えてきています。1995 年に完全に根絶されたはずのポリオでさえ、今のシリアでは 8 万の子どもたち

---

issue 1, January 2014,

http://www.thelancet.com/journals/laninf/article/PIIS1473-3099(13)70368-2/fulltext?elsca1=ETOC-TLID&elsca2=email&elsca3=HTDJ

[10] A wake-up call for polio eradication', The Lancet Infectious Diseases, vol 14, issue 1, January 2014,

http://www.thelancet.com/journals/laninf/article/PIIS1473-3099(13)70368-2/fulltext?elsca1=ETOC-TLID&elsca2=email&elsca3=HTDJ

がかかっていると言われています[11]。あまりにも大きな数字のため、医療専門家はポリオウイルスの国際的拡大を懸念しているほどです。

紛争が続く限り、崩壊したシリアの医療システムを建てなおすことは難しいでしょう。しかし以下のことを至急行えば、この紛争で苦しんでいるシリアの子どもたちの暮らしを劇的に改善することが可能です。

1. 人道アクセスに関する国連安保理決議 2139 の即時施行により、ワクチン、食糧、水、薬やその他の命を救うための支援を届けること。人道支援を届ける機関が、すべての地域に自由に出入りできるようにすること。人道支援が紛争の前線をまたぎ、包囲されたエリアに入るときの一次停戦、そして直接目的地にたどり着くために国境を超えなければならない場合のアクセスの提供。
2. 医療施設やヘルスワーカーが標的とならず、治療を必要としている子どもに対して治療が行えるようにすること。
3. 子どもが予防できる病気や治療できる怪我で亡くなることがないよう、子どものための医療サービスに対する投資を行い、アクセスを確保すること。現在機能している病院のうち、子どもの病気を扱うための機器や薬を備えているのは半分しかありません。多くの施設は重症を負った子どもや、慢性疾患を持った子どもの治療のために必要な物が揃っていません。

国際社会は、シリアの子どもたちを見殺しにしています。子どもたちは傷つき、怪我をしているにもかかわらず、治療を受けられていません。ポリオや他の予防可能な病気になり、命が脅かされ、障害を負うことになっているにも関わらず、適切な薬がないため苦しみ、死んでいっているのです。世界のリーダーは、この紛争の一番小さな犠牲者のために立ち上がり、明確なメッセージを送らなければなりません。これらの苦しみと死は、決して受け入れられるものではないということを。

[11] 同上